

大涌谷

箱根の火山活動の中心は「大いに沸騰している谷」を意味する大涌谷です。その起源は、箱根のカルデラでの噴火がカルデラ中心部に円錐形の火山を形成した約 13 万年前にまで遡ります。この中心の円錐は崩壊し、何千年もかけて何度も新たに出現しました。今日私たちが知っている大涌谷は、約 3,000 年前に形成されました。この時、中央部の円錐形状がまた別の爆発により崩壊して火砕流を発生させ、近くの早川をせき止め、この大規模な噴火が起こる前に円錐形状があった場所に水の流れない谷を形成しました。

大涌谷が広大な箱根火山のまさに中心に近いことを考えれば、谷が地質活動の温床となっていることは、あまり驚くことはありません。地下のマグマによって温められた蒸気やガスは、絶えず空気中に放出されています（江戸時代

（1603 年-1867 年）の人々はこの景色にインスピレーションを受けて、この場所を「大地獄」と呼んでいました）。1876 年には、明治天皇（1852 年-1912 年）の訪問を前にして、自分たちの故郷の地域を良いイメージで紹介したいと伝えられるところによると思ったという地元の人々が、悪魔のような響きを抑

えながらも、同じくらい刺激的な「大涌谷」という名前を付けることにしました。今日、箱根の多くの温泉を温かく保っていることに加えて、大涌谷は、幅広い科学調査の場所や、人気の観光地となっており、ここでは硫黄を含んだ水で蒸した「黒玉子」が地元の名物になっています。独特の卵の殻の色合いは、2日から5日で徐々に消えます。